県道 251 広島

よみがえる グリーンライン

～捨てられ犬保護活動のカルテ～

グリーンラインを愛する会
理事長　丸山 孝志

「捨てられ犬保護活動の問題」に関する地域カルテを作りそれに沿って行動プランを作りました。

「捨てられ犬」と言う言葉は聞きなれないでしょうが、私たちは「捨て犬」ではなく敢えて「捨てられ犬」と呼びます。捨てる人も勿論問題ですが、それ以上に捨てられる犬たちを無くしたいという思いからです。

「何が問題か?」

1、捨てられる犬が後を絶たない

2、現場で捕獲する事が難しい

3、捕獲した犬の里親探しと里親選び

4、譲渡までの預かりボランティアがいない

5、活動に要する資金の調達が困難

全部についてカルテを紹介すれば長くなるので、それぞれの問題について原因を考え、対策を行ったその対策の一部と、その成果についてだけ述べます。

「捨てられる犬が後を絶たない」

私たちが考えた原因の一つはごみ問題の時と同じ心理です。「グリーンラインに捨てれば、愛する会が何とかしてくれる」と言う身勝手な考え方です。そこで私たちがした行動は、マスコミやSNSで、捨てられた犬たちの大半がたどる悲惨な現実を知ってもらう事です。

捨てられた犬たちの内、私たちが捕獲できるのは数十分の一です。野犬になって生き延びるのはほぼゼロです。殆どの犬たちが数か月で死にます。

「信頼し愛していた飼い主に捨てられたショックで精神に変調をきたす」「餌を手に入れる事が出来ず餓死する」「車にはねられる」「カラスや猪などに襲われる」「寄生虫や病気で死ぬ」…本当に直視できない悲惨な死です。そんな捨てられ犬たちの現実を訴えました。その成果は色々な所に現れました。

捨てられる犬が減ったのも事実です。また、里親希望者や預かりボランティアの方々も増えました。

全国放送で紹介された私たちの活動を見て数十万円のご寄付をして下さった歌手の方も居られました。年金が入るたびに数千円のご寄付を続けて下さった方も居られます。

そうした方々と力を合わせておよそ10年の活動で30数頭の犬たちを助け出し、里親様に命のバトンをお渡ししました。助けられなかった数百頭の命たちの分まで幸せになって欲しいとの思いで、私自身もたくさんの犬たちを捕獲し、預かりをしました。

そうした活動の中から「グリーンラインの犬たちの会」が生まれ、里親様と犬たちと私たちの同窓会も実現しました。その様子もテレビやラジオや新聞が紹介してくれました。

今でも毎年、年賀状で近況を知らせて下さる里親様も居られます。中にはすでに亡くなった子もいます。火葬に立ち会わせていただいた犬たちもいます。「この子のお陰で私たちはとても幸せでした。この子を助けて私たちと出会わせて下さった丸山さんたちには感謝してもしきれません。」涙を流しながらそう言って下さいました。

そんな中の一頭に「ゴン太郎（ゴンタ）」がいます。次回は本題を少し離れて、ゴンタとの出会いから、ゴン太郎になった現在までをお話しします。

グリーンラインで保護された犬たち

犬の里親活動